

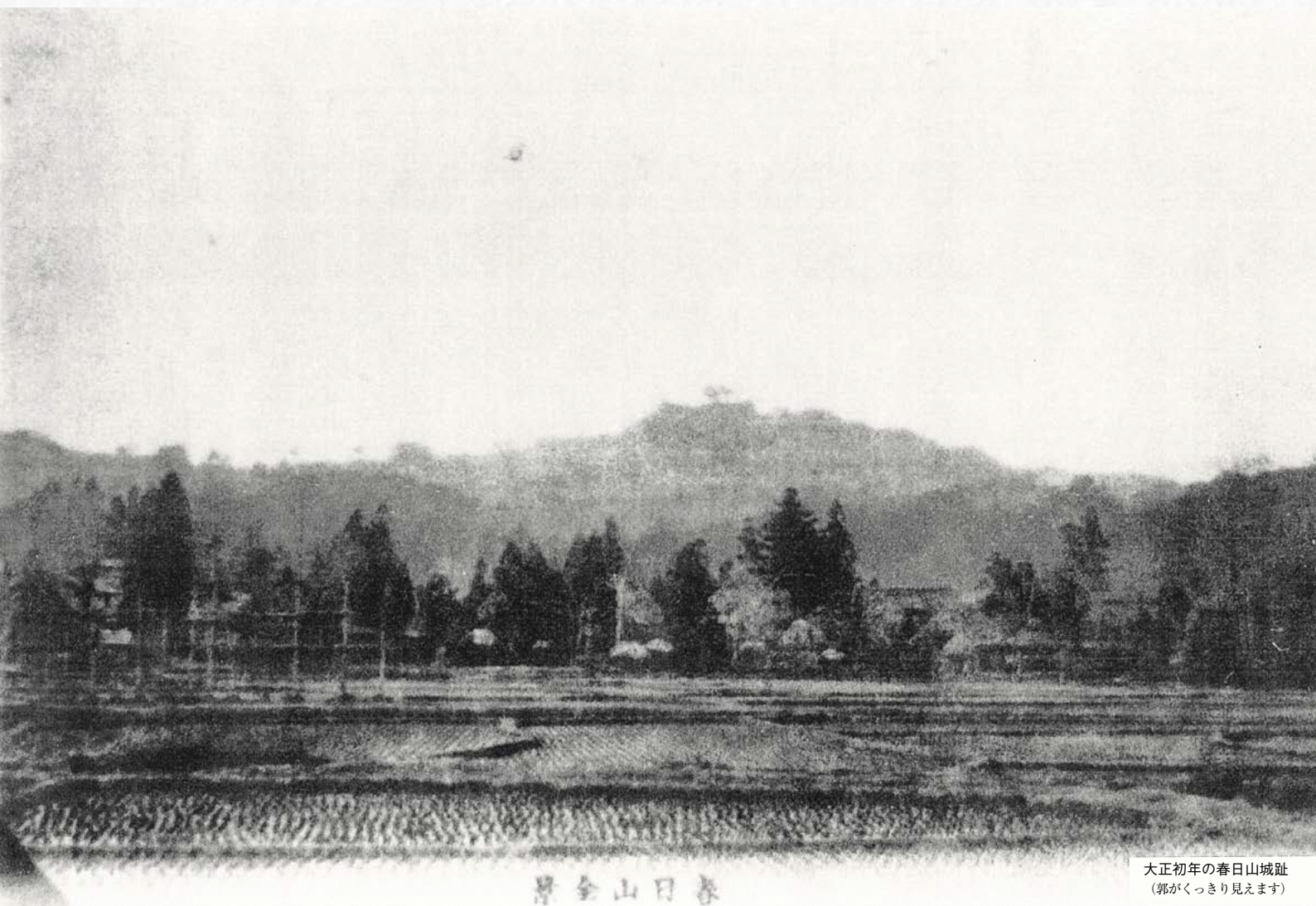
◆春日山城の整備

春日山城は、総構の一部を除いてほとんど発掘調査を行っておらず、当時の資料も残っていないため建物等の復元整備は困難です。一方、大正時代以降に植林された杉で全山覆われており、眺望を遮るだけでなく、根が浅いので風雪で倒れやすく遺構を破壊するおそれもありました。そこで、整備にあたっては、遺構の保存と春日山城の特徴である土木工事の粋を見ていただくための修景に力点を置いてきました。

当面は、植林された杉が繁茂する春日山城を、約100年前に撮られた現存する最も古い写真を参考に、丘陵尾根に幾段にも区切られた曲輪や空堀が望める姿に戻すことを目標として進めてきました。杉の伐採を計画的に進めるとともに、市民ボランティアと下草刈り等を進め、現在、山城らしい姿が市街地からも望むことができ、各曲輪からの眺望も確保できるようになりました。市民ボランティアの活動には、市内の小中学生も参加し、春日山城を守るバトンが確実につながっています。

平成8（1996）年、総構の一部を「春日山城史跡広場」として公開するとともに、ガイダンス施設「春日山城跡ものがたり館」を併設し、史跡学習の一助としています。

さらに、平成14（2002）年には大手道入口に、春日山城のインフォメーションとしての機能を持たせた「埋蔵文化財センター」をオープンしました。これらの施設を拠点に、各曲輪として、散策マップを片手に、全国屈指の大きさを誇る中世城郭をぜひ体感してください。



大正初年の春日山城跡
(郭がくっきり見えます)